巻頭言

通巻500号を迎えて

－顔の見える広報活動－

理事　　久田　卓興

所報は今号をもって通巻500号を迎えることになりました。森林総合研究所の前身である農林省林業試験場当時の1964年8月に場報として第1号が発刊されて以来、1988年10月には森林総合研究所への名称変更に合わせて所報と改名され、この間実に42年近くに亘って研究所の様々な情報を多くの方々に伝えてきました。最近は研究所の研究内容や成果のトピックス、催し物や出版物のお知らせなど、やや型にはまった内容が多くなってきた感がしますが、創刊当時の場報をめくってみると色々な記事が掲載されていて、当時の職員の努力ぶりが目に浮かんできます。

第1号の発刊に際して、板口勝美場長は林業及びその研究のPR不足を指摘し、「われわれの試験研究活動が林業振興の不可欠な基盤であるとともに、いかにそれに寄与しているかをまず正しく刻々と知らせることが、何よりも必要である。」と述べています。その意味では、この精神のもとに場報、所報はそれぞれ役割を果たしてきたと思われます。しかし、所報を含む当所の広報活動については、情報化時代を迎え改めて考え直す必要が出てきているように思われます。

今後、情報活動ではますますインターネットの重要性が増すと思われますが、それとともに紙面を使った情報伝達の役割や方法も変わっていかなければなりません。文字を通して伝えられる情報は、読者の興味や洞察力によって非常に内容豊かなものとなりますが、そこには作者の奥深い思慮が盛り込まれていなくてはなりません。作者の動悸や熱い眼差しが迫ってくるような状況に出会ったときの感動は言葉では言い尽くせません。

私たち森林総合研究所の理念や活動内容を多くの方々に理解して頂き、「日本の将来にとってなくてはならない研究機関である。」と感じて預けるようになりたいと思っています。皆様には、今後の所報のあり方について、是非ご意見を賜れば幸いです。絵を入れろ、若者の夢を載せろなど何でも結構です。研究所は今、新しい方向に向けた改革に積極的に取り組んでいる最中です。多くの皆様のご支援ご指導をお願い申し上げます。

［巻頭言］［500号記念］［報告］［おしらせ］［特許情報］
[所報トップページへ]